

# コロナの収束を、災害は待ってはくれないから。

## 阪神・淡路大震災発生日に、“在宅時の防災知見”を全国へ

### 被災県の3紙合同での防災情報発信アクション

# 防災記事でつくられたお土産袋『おみやげ防災』

## 神戸を象徴する場所にて無料配布開始

この度、神戸新聞社、福島民報社、熊本日日新聞社は、地方紙の持つ防災情報を全国に発信していく共同プロジェクトとして、被災した地元を長年取材してきた蓄積された防災記事でつくられたお土産袋『おみやげ防災』の配布を実施します。

1995年の阪神淡路大震災から26年、2011年の東日本大震災から10年、2016年の熊本地震から5年。長い年月が経った今でも、日本を襲った大規模な災害は人々の記憶に強く残っています。『おみやげ防災』は各震災時に得られた防災知見を全国に発信するべく、被災地を一番近くで取材してきた地元新聞社が集めた防災知見が詰まった記事で構成されたおみやげ袋を配布し、全国に広げる企画です。神戸では、阪神・淡路大震災が発生した1月17日より、三宮駅や神戸空港をはじめとした神戸を象徴する場所で配布いたします。さらに、福島では、東日本大震災が発生した3月11日に、熊本では、熊本地震が発生した4月14日にも各地方の象徴的な場所でも各地方の防災知見を集めたおみやげ袋の配布を行っていく予定です。

本プロジェクトは昨年度起案し、実施を行う予定でしたが新型コロナウイルス感染拡大に伴う、観光などの県外移動自粛の理由から、延期判断をしておりました。しかし、感染拡大が続く今もなお、災害のリスクは常に隣り合わせであることから、少しずつだとしても、被災地の防災知見が広がることに意味はあると考え、配布を実施する運びとなりました。



## コロナの収束を、 災害は待ってくれるだろうか。

コロナという未曾有の危機に直面する今、  
一体どれだけの人が災害に備えることが  
できているでしょうか。

地震は人の都合など考えてはくれない。

26年前の今日、震災で日常が一変した私たちは、  
そのことを誰よりも知っています。

だから、今、こんな時こそ、改めてみんなに  
防災についても見直してもらいたい。

このお土産袋に載っている記事は、神戸新聞が  
地元新聞社として、阪神・淡路大震災を  
一番近くで取材して集めた防災知見です。

被災地の経験を、被災地だけの経験にしないために。

まずはこの地で暮らす人の手から、その先の大切な誰かへ、  
徐々にでも、命を守る情報が広がることを願って作りました。

災害は防げなくても、知識があることで防げる被害はきっとあるから。

お土産袋になった神戸新聞、今日から配布をはじめます。

### 阪神・淡路大震災発生日 1月17日配布 おみやげ防災 概要

防災知見を地方から全国に持ち帰ってもらうために着目したのが、県外から来た観光客の半数以上が、家に持ち帰る「おみやげ」。おみやげと共に新聞社に蓄積された防災知見を県外に持って帰ってもらえる仕組みとして『おみやげ防災』を昨年度2020年に制作しました。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大を受け、施策実施の延期判断をしておりました。今回記事として取り上げる阪神・阪神淡路大震災では、明け方の地震発生ということもあり、ほとんどの人が家にいる状態での被災であった、という経験をもとに、在宅時に突然発生する災害への対策の重要性から「在宅時の避難」をテーマに掲げています。このテーマは現在のステイホーム期間とも合致し、在宅時の災害の備えを訴える啓蒙アクションになるのではないかと考え、少しずつでも、今こそ実施すべきと判断しました。このお土産袋を手にした人の手から、命を守る防災知見が少しでも多くの人の手にも共有されることを願い、配布いたします。



※紙袋上の防災知見は新型コロナウイルス感染拡大前に制作されたものです。  
コロナ禍における災害対策は、内閣府防災情報ページからご覧になれます。



## おみやげ防災 配布場所概要

1月17日は、三宮駅や神戸空港をはじめとした神戸を象徴する場所で「おみやげ防災」を配布いたします。

### 【『おみやげ防災』配布概要】

日程 : 1月17日～無くなり次第終了

配布場所一覧 : JR 新神戸駅  
JR 三ノ宮駅  
JR 神戸駅  
神戸空港、  
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター  
北淡震災記念公園

※営業時間などの詳細につきましては、各店舗の公式 HP をご確認くださいませ。

※『おみやげ防災』配布にあたり、コロナ対策として下記の対応をいたします。

- ・各配布エリア内に一時的にお客様が増加した場合には、配布制限をすることがございます。
- ・配布スタッフは、手洗い・うがい・消毒・マスクの着用・入社時の検温実施を徹底しております。

※福島、熊本での配布情報に関しては、それぞれ各新聞の掲載面にて告知いたします。

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため、手渡しでの配布はいたしません。

各所設置となりますので、ご自由にお取りください。

## 各新聞社担当者のコメント

<福島民報 宗像恒成>

東日本大震災から8年半が経った2019年10月に発生した台風19号と記録的大雨により、福島県内では32名の尊い命が奪われました。大災害の中、命を守るため住民はどう行動したかを袋に記しました。災害時の行動に生かしてほしいと思います。

<神戸新聞 大岸裕樹>

被災した地元紙だから発信できる「生の防災知見」という価値のある情報を、全国に届けようとはじまったこの企画。震災から復興した神戸の街を体験された人が、お土産と一緒に防災知見を全国各地に届けていただければうれしいです。コロナ禍の今だからこそ、いつ起こるか分からない災害に備えて欲しいと思います。

<熊本日日新聞 柳原哲郎>

熊本地震では最大震度7の揺れと、その後も続く余震によって、多くの人々が被災し、長期的な避難を余儀なくされました。熊本ではその中で、要支援者や子供たちに対する配慮、また避難所での過ごし方について、様々な知見を積み上げました。

このお土産袋を手にとった方が、この知見を活かして災害に備えていただけたら幸いです。